はしど

練馬区立橋戸小学校
学校だより　第１０号
令和２年　２月　３日
校　長　　青木　俊哉
http://www.hashido-e.nerima-tky.ed.jp/

☆学校教育目標　　考える子・思いやりのある子・たくましい子

話し合うって…〇〇〇

校　長　　青　木　俊　哉

不思議なタイトルを付けました。皆さんだったら、〇〇〇にどんな言葉を入れるでしょうか。**話し合うって“楽しい、難しい、大好き、めんどうくさい、つまらない、やりたくない…”**大人でも、ネガティブな言葉の方が思い出される問いかもしれません。子供たちにとっても、放っておくとそうなりかねませんが、果たしてそれでよいのでしょうか。教科の授業だと自分の意見をしっかり発言できるのに、**“自分たちの問題”**となるとなかなか考えをまとめられなかったり、意見を言えなかったりする子が多くなっているようにも感じます。身近な課題や問題を解決するために、互いの意見や考えを伝え合い、意見の違いを認め合いながら、一つにまとめたり、いくつかのアイデアを並べたりすることは、これからの時代を生き抜くためには、欠かすことのできない資質・能力だと思います。教科の学習で身に付けた思考・判断・表現の力を、身近な課題解決の場面に生かせる**“実践の場”**として、特別活動（学級活動）での話合い活動、とても大切です。

かつて副校長として勤務した学校で、初任者と産休代替の若い先生合わせて３名が担任をしていました。校内研修（OJT）を任せた教員が、彼らに**「今一番悩んでいることは何？」**と尋ねたところ、**「朝の会や帰りの会の進め方がわからない。」「係活動や学級会がうまくいかない。」**など、学級活動に関する課題や悩みが出されたそうです。考えてみると、時間割にはあるものの、国語や算数のように教科書がある訳ではなく、指導内容や方法も様々です。隣の先生の指導を見たいと思っても、どのクラスも同時進行で進むことが多く、覗いてみることもままならず…だったようです。さらに、自分自身にそういった（特活的な場面の）経験がないという教員もいました。本校にも、３名の初任者をはじめ若手教員は何人もおり、同じことに悩む可能性があります。そこで…、今学期の各学級の授業観察では、参観する教科・領域の選択肢の中に学級活動（話合い活動）も入れ、まずは本校の子供たちの姿や指導の実態を見ることにしました。幸い、いくつもの学年・学級で話合い活動の場面を用意してくれました。こんなことを言ったら、不謹慎だと叱られるかもしれませんが、どの学級も、参観後に**「面白い、ホッとした気分になる。」**そんな感想をもちました。異なる意見があっても認め合い、言い争いにもならず、決まったらそれに納得できる、そんな充実した話し合いが展開されていました。参観した授業でメモをした**“気が付いたことやポイントになりそうなこと”**を、順不同で書き出してみますと…。

・みんなが発言　・ハンドサイン　・ルール(決め方)が明確　・議題の予告　・コの字型の座席　・ICT の活用
・司会グループの指導　・黒板書記(記録)を簡単にするグッズ　・役割プレート　・色分け、マグネットの活用
・指導者(担任)の出番は？　・上手に言葉を挟むコツ　・誉め言葉のタイミング　・うなずき、称賛の声かけ
・タイムキープの手だて　・台本、ワークシート集　・第□会学級会　・めあて、振り返り　・積み重ね　・・・

子供の発言や活躍場面が保障され、みんなが生き生きと授業に参加していること。終了時に**「また話し合いたい。」「今日は意見が言えなかったけど、次は私も絶対言いたい。」**と振り返る子をたくさん見かけたことからも、まさに**“能動的で主体的な学びの場”**になっていたことがわかります。学び方（話し合い方）を学ぶためには、当然行き当たりばったりという訳にはいきません。この４５分の授業のために、担任はたくさんの準備をします。議題を用意し、座席の配置や役割分担、進行台本やワークシート、子供をその気にさせる**“仕掛け”**にも様々あります。進め方を打ち合わせたり、事前に予告して考えさせておいたり、担任のやり方や個性がよくわかる授業でもあるのです。土曜公開で、話合い活動の場面を見る機会はあまりないかもしれませんが、お子さんの連絡帳（時間割）に、学活とか話合い活動とあったら、ぜひ**“今、クラスでどんな話し合いをどんなふうに進めているか”**、聞いてみてください。きっと、生き生きと教えてくれると思いますよ。